

(別記様式第3号)

普及活動検討会実施報告書

栗原農業改良普及センター

実施月日：令和7年9月2日

実施場所：栗原市若柳総合支所

1 検討内容

No.	検 討 項 目
1	令和7年度普及指導計画について（報告事項）
2	課題3「土地利用型経営体大豆多収穫技術の体系構築による単収の向上」について
3	課題1「加工用たまねぎの直播栽培技術の確立による収量確保」、課題2「金成有壁地区の活性化ビジョンの実現」の取組状況について（報告事項）

2 検討委員の構成

(単位：人)

区 分	人数	区 分	人数
先進的な農業者	1	生 活 者	
若手・女性農業者	2	学識経験者	1
市 町 村	1	マスコミ	
農業関係団体	1	民間企業	

3 委員の評価と普及センターとしての対応方向

検討項目	評価値 平均値	評価結果（コメント、評価表の要約）	普及センターとしての対応方向
令和7年度普及指導計画について （報告事項）		- 令和7年産米においても、米概算金単価が大幅に上昇しているので、米生産者はなかなか園芸作物に転換しないのも現実である。 - 普及センターが栗原の農業に対して地域性を生かした様々なアプローチや関わり方をしていることを評価したい。昨今の異常気象や物価高騰の対策等も取組を強化していただきたい。 - 市としても課題としている内容を計画に掲げているので評価したい。 - プロジェクト内容については農家の所得確保に向けた持続可能な農業の取組を推進している。転作田を活用した大豆、たまねぎ、地域農業を継続させるための取組など大いに評価に値する。今後も品目等を変えても、栗原市の農業発展のために尽力いただきたい。	- 主食用米価格の高騰が続いていますが、今後の先行きについては不透明であり、農業者の安定的な所得向上に向け、引き続き収益力が高い園芸品目の産地育成・強化に努めてまいります。 - 温暖化による異常気象が危惧されますが、毎年の気象状況や作柄なども踏まえながら、品種や作型の見直しなどの検討を支援してまいります。 - 肥料・資材価格が高騰する中、地域資源の堆肥の活用、施肥方法の改善等、生産コスト低減技術やコスト増を補う増収技術

			等の助言などを行ってまいります。 ・今後も農業者や関係機関・団体等と連携し、社会情勢の変化に適応しながら、地域課題に焦点を当てた普及指導計画の策定、活動実施に努めます。
課題3 「土地利用型経営体 大豆多収穫技術の体系 構築による単収の 向上」について	4.5	・昨年よりも雑草を防除できており良いと思うが、作業が適期に行われるようになるとさらに防除効果が期待できる。 ・大豆は雑草対策が難しいと感じた。今年度は雨も少なく、明渠がどこまで効果があったか分かりづらかったが、次年度はその点も確認できると良い。 ・減収の原因およびそれに対する対策が明確にされており、対象者がそれらをしっかりと認識できている。「大豆栽培チェックリスト」により、工程毎の評価が見える化されている。どのような品種が必要とされているか具体的な調査は必要ないか。小面積、不適地への対応にも期待したい。 ・今回、現地視察したほ場は、「大豆栽培チェックリスト」などの取組みにより、雑草の抑制につながっていた。また、対象組織からも収量安定に向け意欲的な意見がなされていることも評価したい。なお、市内のほ場において、雑草が多くみられるほ場もあることから、他の農業者にもこの取り組みが普及し、収量が確保できるよう支援をお願いしたい。 ・栗原管内ではこれまで数十年と大豆栽培が行われてきたが、再度基本的作業に注視した取組は評価できる。例年、梅雨時期の播種から時間に追われての作業の中で、生産者も適期作業の重要性は認識している。今回のプロジェクト課題で使用した「大豆栽培チェックリスト」は評価でき、全体へ普及することも期待している。ただし、今後アサガオ系の除草剤が少なくなることから、雑草対策の指導、情報提供などにも期待する。	・昨年度のプロジェクト課題の結果を踏まえ、次作に向けた栽培管理作業の見直しを行い、今年度は排水対策と適期・適切な雑草対策を重点的に支援しています。また、「大豆栽培チェックリスト」を活用し、栽培管理作業の実施状況や作業精度を評価して、次作へ生かすこととしております。 ・このプロジェクト課題は今年度で終了ですが、その後も継続して雑草対策や排水対策をフォローアップしてまいります。 ・「大豆栽培チェックリスト」等は、栽培研修会等を通じて他の大豆生産者への横展開を図るとともに、雑草対策等の情報を適時に提供し、収量増加への取組を支援してまいります。
課題1 「加工用 たまねぎの直播栽培 技術の		・機械除草、普及センターと農家との連携まで作業体系で捉えている。役割分担が明確となっている（JA：資材・リース、普及センター：実証、農家：モデル化）。 ・他地区で栽培がうまくいっている事例があることも考えると、今作でうまくいかなかったのは土地柄もあるのではないかな。 ・令和6年直播栽培において目標収量に届かなかった要因に対する対応策はどうか。加工用たまねぎに期待される特性と品種との関係はどうか。	・令和6年播種の生育不良は、播種の遅れにより年内生育量の確保ができず、厳冬期に枯死する株が多発したためと考えており、この対応策として、適期播種できるように作業体系の見直しを助言するとともに、地域に最適な早晚性を持つ品種の作付

確立による収量確保」について (報告事項)		・法人による取組みは、播種の遅れにより収穫に至らず残念な結果となった。直播栽培は作業の省力化に効果があると認識しており、安定的な収入につながるよう支援をお願いしたい。 ・令和4年から加工用たまねぎの作付け推進を行っているが、面積拡大には至っていない。また、2つの対象法人では令和6年播種のたまねぎにおいて残念ながら生育不良となっている。一番の課題は今年のような気候では適正な播種時期がいつなのかという疑問が生じる。この地域では直播は大きく普及していないが、直播が定着できるよう今後期待したい。	け誘導を行っています。一方で、昨今の播種時期の高温の影響も検討が必要であると考えています。 ・加工用たまねぎに期待される特性は、溶解性や加熱安定性といった加工適性や保存性、そして特定の加工用途に適した風味や成分量です。品種によって玉の肥大性や糖度・辛味の成分、貯蔵性が異なることから、これらが期待される特性と関係していますので、関係機関と連携して実需者が求める特性を持つ品種の栽培誘導を図ってまいります。 ・引き続き、省力化とコスト削減に寄与する直播たまねぎの安定生産に向けた農業者の栽培技術の習得を支援してまいります。
課題2 「金成有壁地区の活性化ビジョンの実現」の取組状況について (報告事項)		・地域的に取り組む良い事例ではないかと思う。 ・酒造会社との連携、体験イベントで相互関係ができてきている。今後も栗原の特産の一つとして頑張っていたきたい。 ・地元酒造会社と連携した酒米作付の取組は素晴らしい。 ・活性化ビジョンの実現について、農地整備事業の担い手となる法人設立に向けた支援を行っていただいているが、今年度事業が採択されたことから、早期に法人設立されるよう引き続き支援をお願いしたい。 ・令和4年にぐるみ型の農業法人が検討され設立に至らなかったのは残念であるが、再度法人設立が予定され、苦労されたことと察する。田植体験や稲刈り体験など生産地の紹介、酒造会社との意見交換などにより双方の目標に向けた取組を支援したことは大いに評価できる。今後、その連携強化により地域活性化につながることを期待したい。 ・田植体験や稲刈り体験の対象はどのようなになっているか。何かしらの形で学生・生徒が関われる可能性はあるか。	・農地整備を契機とした地域活性化ビジョンの実現に向け、意見交換やイベント共催などを通じて普及対象と地元の酒造会社との連携強化を図るとともに、地域農業の核として農地整備事業の担い手となる法人設立への支援を行ってまいります。 ・田植体験や稲刈り体験の対象は限定されておりませんが、利き酒体験も組み合わされていることから参加者は成人やその家族連れとなっています。学生・生徒が関わるとすれば、援農ボランティア等が考えられます。

その他		・昨今の異常気象や、多種多様な分野がある中での活動は大変だと思うが、様々な計画が立てられていて、我々農家としても普及センターの存在はありがたい。技術面や、助成金、法人化等の手助けを今後もよろしくお願いしたい。	・普及センターでは、農業者の技術と経営の改善に向けた活動に取り組んでおりますが、一層、農業経営の改善・発展を支援してまいります。また、農業経営には設備投資などに大きな経費が掛かることがありますので、適切な助成金等の情報提供にも努めてまいります。
-----	--	---	---

※：検討項目数に応じて欄を追加し記載する。